

6 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(六枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答题紙に記入すること。)

一 あとの問一～問七に答えなさい。

問一 次のア～オの読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

ア 大孟鼎 イ 蒙恬 ウ 出師表 エ 大聖武 オ 康熙字典

問二 次のア～オは、書道に関連のある語です。それぞれの説明を簡潔に書きなさい。

ア 兼毫 イ 万葉仮名 ウ 小篆 エ 向勢 オ 節筆

問三 次のア～ウは、書道に関連のある人物の説明です。それぞれ誰について述べたものですか。漢字で書きなさい。

ア 中国最後の文人ともいわれる人物で、西泠印社の初代社長を務めた。石鼓文を基調とした篆書作品が有名である。
イ 唐第二代の皇帝で、治世は「貞観の治」として名高い。代表作に「晋祠銘」「温泉銘」がある。
ウ 唐の四大家の一人であり、王羲之の書跡の収集や鑑定に当たった。代表作に「枯樹賦」「雁塔聖教序」がある。

問四 次の図版は、ある木簡の一部です。書かれている文字を、それぞれ常用漢字の字体で書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

問五 次の文章は、「針切」について述べたものです。文章中の [ア] [ウ] に当てはまる語をそれぞれ漢字で書きなさい。

「針切」は、平安時代の歌人・相模の家集「相模集」と源重之の子の家集「重之の子の僧の集」の写本である。装飾加工を施していない [ア] を用いている。もとは二つの家集を合わせた綴葉装の冊子本だったが、現在は [イ] であることから文学資料としての価値も高いとされている。筆者は [ウ] と伝えられている。

6 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(六枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

問六 次の図版①・図版②は「針切」の一部です。あとのア～オに答えなさい。

図版 ①

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

図版 ②

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

ア 「重之の子の僧の集」を書き写しているのは図版①・図版②のどちらですか。図版の番号を書きなさい。また、その理由を簡潔に書きなさい。

イ 「針切」の書風の特徴を簡潔に書きなさい。

ウ 次の図版③は、図版①の一部を拡大したものです。全ての文字の読みを平仮名で書きなさい。

図版 ③

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

エ 次の図版④は、図版②の一部を拡大したものです。全ての文字の字源を楷書で書きなさい。

図版 ④

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

オ 図版②の和歌の大意を書きなさい。

問七 次のア・イに答えなさい。

ア 次の文は、北宋の米芾の「海岳名言」の一節です。この文の内容を簡潔に書きなさい。
学書須得趣。

イ 次の文は、南宋の姜夔の「続書譜」の一節です。この文の内容を簡潔に書きなさい。
書丹尤以瘦為奇。

6 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

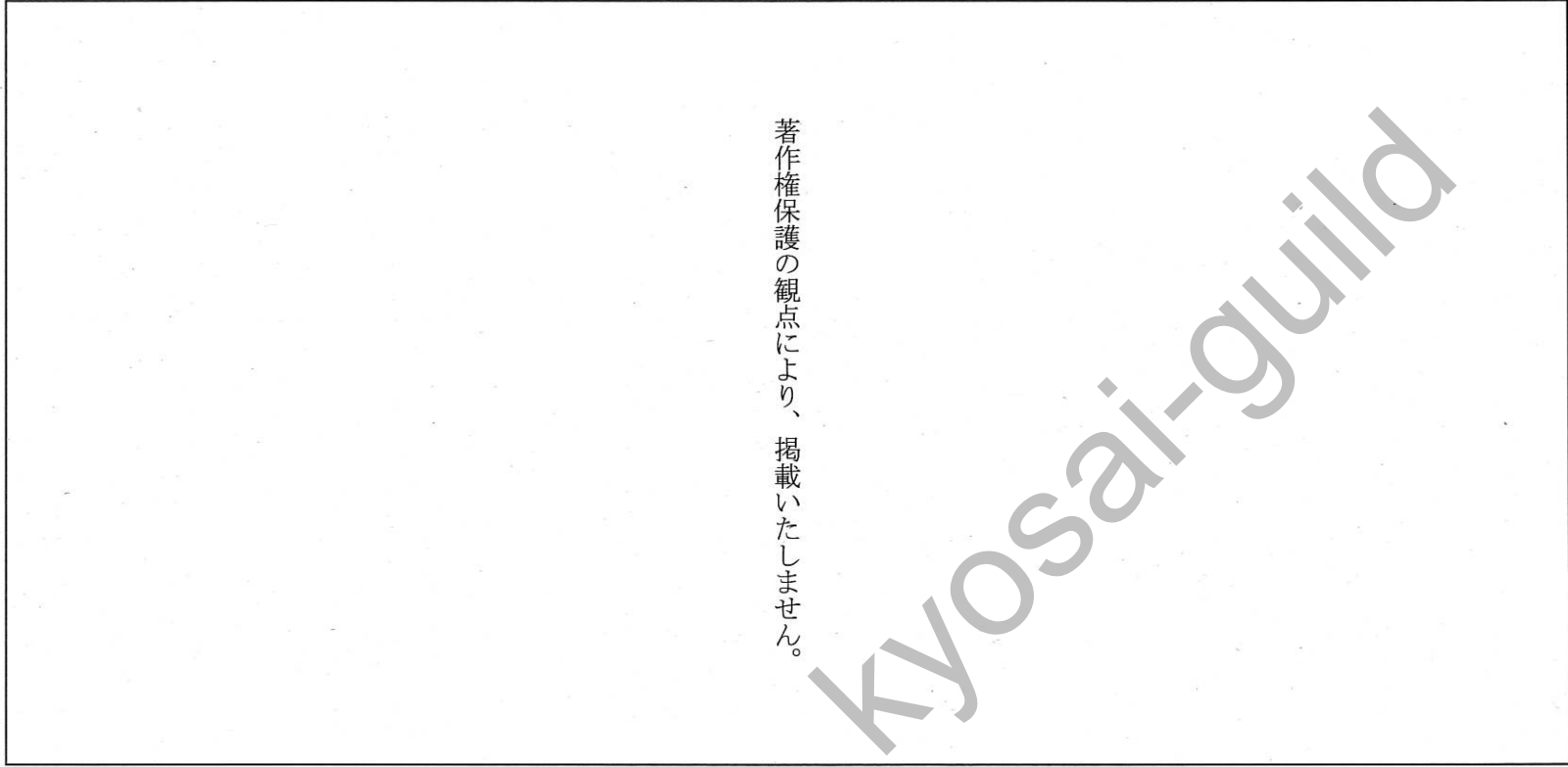
(六枚のうち三)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

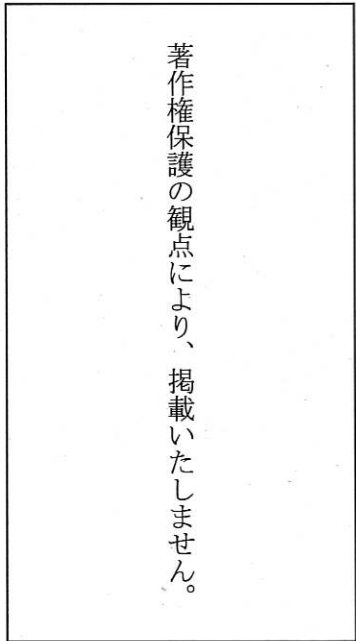
- 二 「書道 I」の授業において、行書の特徴を理解し、行書の古典の一つである「屏風土代」に基づいた臨書活動を行うこととします。その後、「屏風土代」の表現の特徴を生かした「漢字仮名交じりの書」の創作活動を行うこととします。次の図版①は「屏風土代」の一部、図版②は図版①から抜粋した二文字、図版③は臨書活動において図版②に基づき、生徒が半紙に試書したものです。あとの問一～問五に答えなさい。

図版 ①



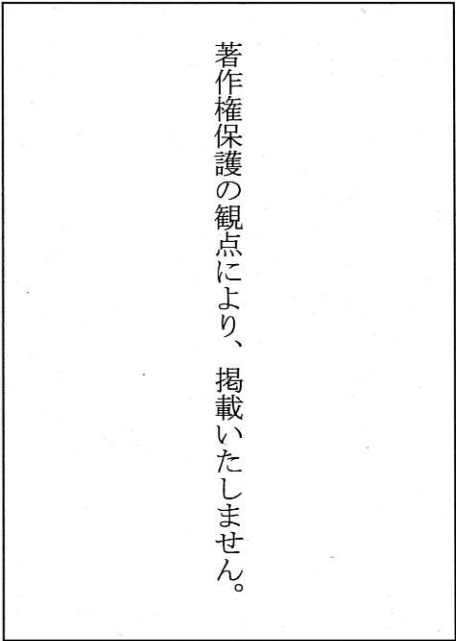
著作権保護の観点により、掲載いたしません。

図版 ②



著作権保護の観点により、掲載いたしません。

図版 ③



著作権保護の観点により、掲載いたしません。

高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(六枚のうち四)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

問一 行書の特徴にはどのようなことがありますか。簡潔に三つ書きなさい。

問二 「屏風土代」について、次のア・イに答えなさい。


ア 「屏風土代」の「土代」とは何ですか。簡潔に書きなさい。

イ 「屏風土代」は大江朝綱の詩を書いたものです。誰が書いたものですか。人名を漢字で書きなさい。

問三 「屏風土代」の書風の特徴は何ですか。運筆、線質、字形の三つの観点についてそれぞれ書きなさい。

問四 図版③について、「屏風土代」の書風の特徴が捉えられている点、改善すべき点はどのようなことですか。それぞれ二つずつ、書きなさい。

問五 「屏風土代」の書風を生かして、「漢字仮名交じりの書」の創作活動を行うこととします。書きたい言葉、表現の意図、表現の工夫、模範例となる草稿を書きなさい。なお、表現の工夫については、「用具・用材、字形、線質、墨色、全体の構成」の五つの観点を踏まえることとします。模範例となる草稿については、次の三点を踏まえることとします。

- ・ 解答欄を半紙大の用紙に見立てて使用し、文字の向きは任意とする。
- ・ 「模範例となる草稿」欄は、文字の大小、線の太細、紙面構成等について、具体的なイメージが生徒に伝わるようにする。
- ・ 落款については、「〇〇書」又は「〇〇かく」とし、落款印の位置を「」で示す。

6 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(六枚のうち五)

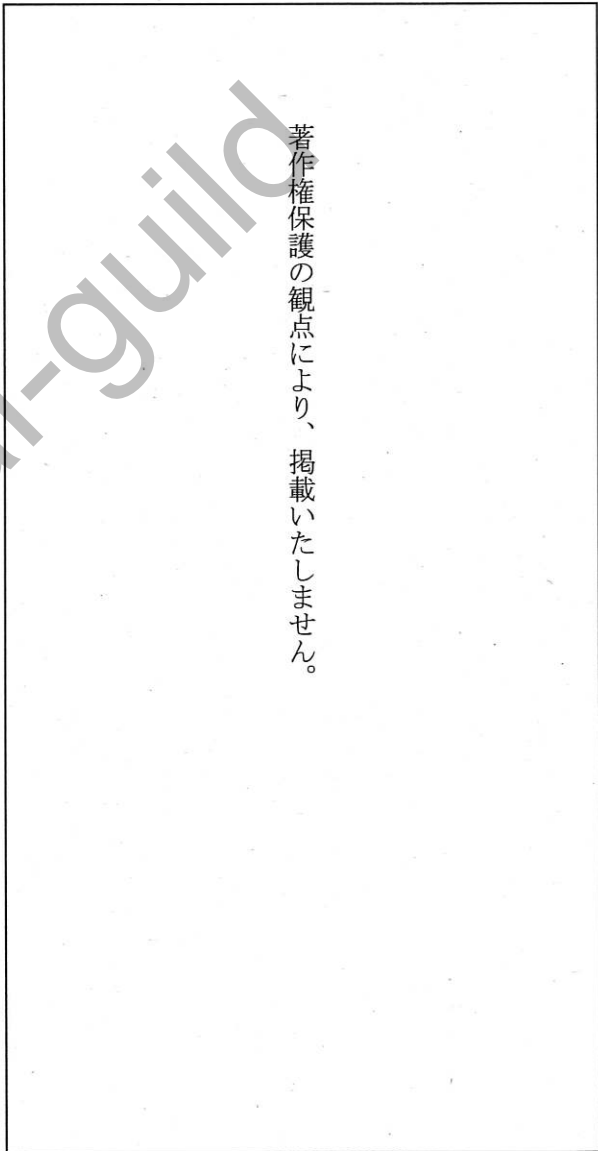
受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

三 次の図版①・図版②について、あとの問一・問二に答えなさい。

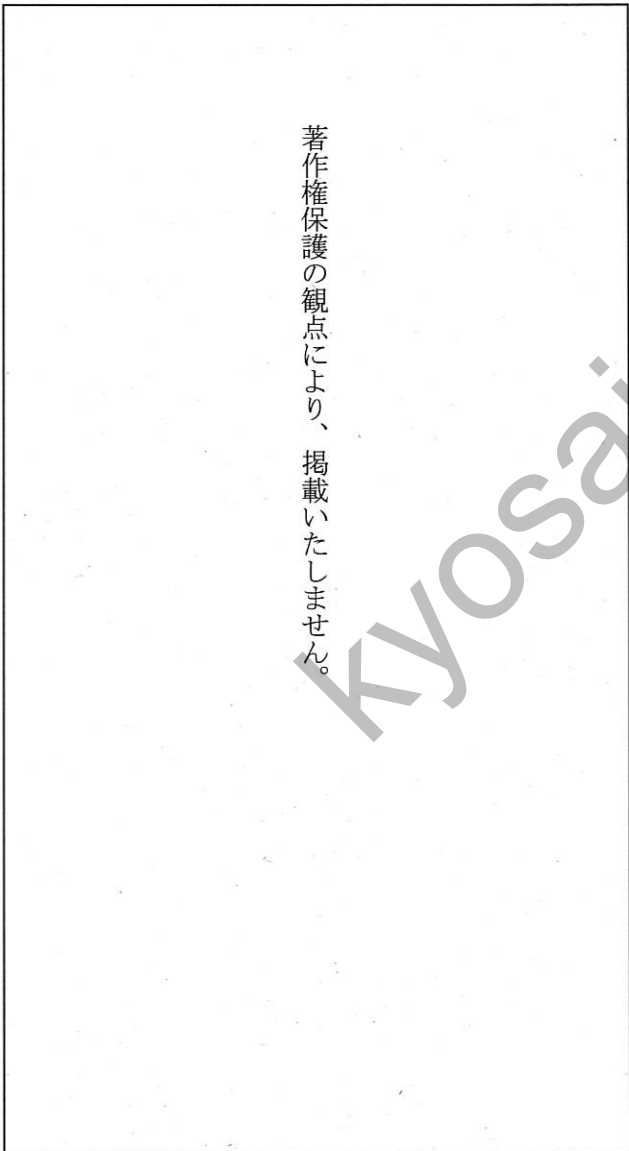
図版① 著作権保護の観点により、掲載いたしません。

図版①



図版② 著作権保護の観点により、掲載いたしません。

図版②



問一 次のア～ウに答えなさい。

- ア 図版①・図版②は、総称して造像記と呼ばれています。作られた目的は何ですか。簡潔に書きなさい。
- イ 図版①は、誰が誰のために作ったものですか。簡潔に書きなさい。
- ウ 図版②は、何と言いますか。書きなさい。

問二 「書道Ⅰ」において、図版①又は図版②を用いて、平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領 芸術 書道Ⅰ 内容A 表現 (2)漢字の書 ア「(ア)古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成」、ウ「(イ)古典の線質、字形や構成を生かした表現」、B 鑑賞 (1)鑑賞 イ「(ア)線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり」を取り扱う授業を四時間で行うこととします。鑑賞、臨書の学習指導において、図版の書跡をもとに、単元計画を設定する場合、どのような評価規準と学習活動を設定しますか。それぞれ具体的に書きなさい。ただし、図版については、図版①・図版②のどちらか一方のみを用いることとします。

高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(六枚のうち六)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

四 平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領 芸術 書道Ⅰ 目標 には、「書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」と示されています。「書に関する見方・考え方」とは、どのようなことですか。簡潔に書きなさい。

kyosai-guild

6

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(六枚のうち一)

受験番号
氏名

問題番号											
問五	問四		問三	問二				問一		解答欄	
ア			ア	オ	エ	ウ	イ	ア	エ		ア
	著作権保護の観点により、掲載いたしません。										
イ				イ						オ	イ
ウ				ウ							ウ

6

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(六枚のうち二)

受験番号
氏名

問題番号

解答欄

一										問題番号
問七		問六								解答欄
イ	ア	オ	エ		ウ		イ	ア		
								図版の番号		
								理由		
			著作権保護の観点により、掲載いたしません。		著作権保護の観点により、掲載いたしません。		著作権保護の観点により、掲載いたしません。			

6

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(六枚のうち四)

受験番号	
氏名	

問題番号	
問五	二
解答欄	書きたい言葉
表現の意図	表現の工夫
模範例となる草稿	

6

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙
(六枚のうち五)

受験番号
氏名

問題番号				解答欄		
問二			問一			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	ウ	イ	ア	
評価規準						
	学習活動					
第1時						
第2時						
第3時						
第4時						

6

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(六枚のうち六)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号	解答欄
四	

kyosai-guild

高等学校芸術科（書道）採点基準

4枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]					採 点 上 の 注 意	配 点
問一	ア	だいうてい					すいしのひょう もよい。	各 2 × 5
	イ	もうてん						
	ウ	すいしひょう						
	エ	おおじょうむ						
	オ	こうきじてん						
問二	ア	硬い毛と柔らかい毛を混合して作った筆。					内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 3 × 5
	イ	日本語の表記のために、漢字を表音文字として用いたもの。						
	ウ	秦の始皇帝が李斯に命じて六国文字を改易させた標準書体。秦篆ともいう。						
	エ	楷書で、向かい合う二本の縦画の中ほどが外側に膨らんだ字形。						
オ	紙の折り目を筆が横断し、節のような筆画となって現れた部分を指す。							
問三	ア	呉昌碩					李世民 もよい。	各 3 × 3
	イ	太宗						
	ウ	褚遂良						
問四		季	元	付	平	望		各 2 × 5
問五	ア	素紙						各 3 × 3
	イ	断簡						
	ウ	藤原行成						
問六	ア	図版 ②					2つとも合っているものだけを正答とする。	3
		理由 詞書が書いてあるから。						
	イ	直線的で細く鋭く流麗な線質である。筆に任せて速く書いているので、連綿字数が多く、こだわりがなくさわやかに感じられる。					内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	3
	ウ	み	ゆ	る	ひ	と		各 1 × 5
	エ	曾	良	乎	奈	可	女	無
オ	紅葉を見ながら秋の間は暮らしていました。冬になった旧暦十月の今は時雨の降る空を眺めていますよ。					内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	3	
問七	ア	書は、趣を得るように学ばなければならない。					内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 5 × 2
	イ	朱で書く際には、とくに細身に書くと出来栄が良い。						

84

高等学校芸術科（書道）採点基準

4枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点	
問一	<ul style="list-style-type: none"> 点画や字形が曲線的である。 点画が連続することがある。 点画が省略されることがある。 点画の方向や形が変化することがある。 収筆が変化することがある。 楷書とは筆順が違うことがある。 	3つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、 表現は異なってもよい。	各 2 × 3	
問二	ア 屏風の色紙形に揮毫した際の下書き。	内容を正しく捉えていれば、 表現は異なってもよい。	2	
	イ 小野道風		2	
問三	運筆 <ul style="list-style-type: none"> 入念な運筆である。 遅速緩急がある。 	内容を正しく捉えていれば、 表現は異なってもよい。	各 2 × 3	
	線質 重厚な線質である。			
	字形 端正な字形である。			
問四	特徴 が捉えら れて いる 点 <ul style="list-style-type: none"> 丸みのある起筆で入念な運筆であること。 文字の中の空間を広くとっていること。 	問いを正しく捉えていれば、 内容は異なってもよい。	各 2 × 2	
	改善 すべ き点 <ul style="list-style-type: none"> 「春」の1、2画目、「花」の草冠の部分、すなわち文字の書きはじめを重厚な線にするために、墨量を多くし、鋒全体の弾力を生かすこと。 「花」の最後の二画で筆脈の連続性をより意識すること。 			各 2 × 2
問五	書きたい 言葉 未来へ向かって歩んでいこう。	問いを正しく捉えていれば、 内容は異なってもよい。	10	2
	表現 の 意図 ゆっくりと着実に歩み、未来へ向けた広がりにつながるよう、重厚さと緩急の変化を織りませ、空間を広くとること。			2
	表現 の 工夫 <ul style="list-style-type: none"> にじまない紙を用い、輪郭を明瞭にし、文字の中の空間をくっきりと見せる。 羊毛、中鋒を用い、弾力と膨らみのある線、及び鋒全体を生かした遅速緩急の変化による立体感、躍動感を表現する。 端正な字形による安定感、及び文字の中の空間を大切にし、広がりを表現する。「来」「歩」の最終画を長めにし、空間へ響かせる。 蔵法を用い、弾力と膨らみのある重厚な線を表現する。また、渴筆の食い込むような線を用い、遠近感を表現する。 茶系の濃墨を用い、豊かで重厚な雰囲気表現し、潤筆、渴筆の対比をはっきりさせる。 三行で構成する。行頭・行末とも不揃いにし、用紙の上部に向かって空間が広がるように行を傾ける。「歩んで」は、渴筆を利かせる。 			
	模範 例と なる 草稿 <ul style="list-style-type: none"> ○次の点に留意して書いていること。 「屏風土代」の特徴を捉えて表現していること。 文字の大小、線の太細、紙面構成等について、具体的に表現できていること。 落款について、「〇〇書」または「〇〇かく」とし、落款印の位置を「印」で示していること。 			8

二

46

高等学校芸術科（書道）採点基準

4枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕		採 点 上 の 注 意	配 点	
問一	ア	仏像を造った由来や発願者、製作者、結願者及び年月を記すため。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	4	
	イ	長楽王丘穆陵亮の夫人である尉遲が、亡くなった息子である牛楸のために造ったもの。			4	
	ウ	始平公造像記			4	
問二	知識・技能	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 「牛楸造像記」の切れ味鋭く角張った点画と、気迫と力強さが感じられる字形など、用筆・運筆、線質等の要素と風趣との関わりを理解できる。 「牛楸造像記」の鋭角的な激しい用筆と明快な線質、張りのある筆圧での運筆、力強い表現の技能を身に付け、変化に富んだ多彩な点画などを表現できる。 	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	6	
			思考・判断・表現		「牛楸造像記」の明快で力強い方筆の特徴が表れた部分を選定し、「牛楸造像記」の書風が生きるように用筆・運筆、字形、全体の構成を考えて表現している。	6
			主体的に学習に取り組む態度		「牛楸造像記」の特徴に基づいて幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	6
	学習活動	第1時	<ul style="list-style-type: none"> 「牛楸造像記」の書かれた背景とその書の特徴との関連を理解する。 「牛楸造像記」の内容を理解した上で鑑賞し、文意の内容に応じた字形、用筆・運筆、線質の表現となっていることを理解する。 		5	
		第2時	<ul style="list-style-type: none"> 「牛楸造像記」の特徴的な部分を臨書し、切れ味鋭く角張った点画と、気迫と力強さが感じられる字形や点画の変化を感じ取る。 「牛楸造像記」の内容と表現を踏まえて、各自が感銘を受けた部分の語句を4～6文字程度選定し、試書する。 		5	
第3時		<ul style="list-style-type: none"> 各自が試書したものと「牛楸造像記」の特徴となる字形、用筆・運筆、線質の表現が対応しているかどうか比較・検討し、表現しようとしている作品の表現意図を深める。 各自が選定した語句の内容や風趣を理解した上で、表現を工夫して清書する。 	5			
第4時		<ul style="list-style-type: none"> 清書した作品の表現意図について発表を行い、互いに鑑賞する。 「牛楸造像記」を再度鑑賞し、「牛楸造像記」の内容と表現のつながりを確認して、各自が表現した作品を自己評価する。 	5			

高等学校芸術科（書道）採点基準

4枚のうち4

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
四	書の特質に即して物事を捉える視点や考え方をいい、感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、書の表現の意味や価値を見いだすこと。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてよい。	20

Kyosai-guild